
バディムの人短編集

バディムの人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バディムの人 短編集

【Nコード】

N4166Z

【作者名】

バディムの人

【あらすじ】

ここはバディムの人 が書いた短編集小説の載る場所です。主に特撮やアニメの二次小説を載せていく予定です。

天の川学園高校の思い（前書き）

天の川学園視点による仮面ライダーフォーゼ。お暇なときにでもど
うぞ。

天の川学園高校の思い

俺の名は天ノ川学園高校。通称天高だ。宇宙飛行士で科学者でもある我望光明が宇宙に向かう若者のために作った学校。それが俺だ。宇宙を目指す若者達の学舎となり、若者達の巣立ちを見送る。そんな場所であることが俺の使命であり、役割である。そう信じていた。

だが、現実には残酷だった。俺に期待されていたのは学び舎などでは無かった。俺は実験場だった。思春期の多感な若者達を怪物に変える実験場。それが俺の役割だったのだ。俺は自分が作られた経緯に絶望した。

しかも一番発展させるべきはずだった天文学部が一人しかいない有り様だった。その一人も女子に妙な妄想を持っている変態野郎だった。

教師も本来なら他のまともな宇宙好きのために、こいつを注意するはずだった。だが、教師の連中は生徒を優秀な怪物にする事しか興味が無い。

生徒も生徒でアメフトとかクイーンフェスとか余り宇宙に関係ないことしか興味を持っていない。

おまえら、一体なんで入学したんだ。宇宙目指すんじゃないのか。

それともあれか。校長がイケメンだから来たのか。

騙されるなよ。あいつは確かにイケメンだが、中身は生徒を怪物に変えることしか考えてない極悪校長だぞ。そんなやつについていても不幸になるだけだ。

だが、俺は所詮学校だ。動けもしなければ喋ることもできない。全く以て無力な存在だ。こんな俺が許せない。いっそのこと隕石でも

なんでも落ちて俺にぶつかって欲しい。

俺が消えれば生徒達は新しい学校を探しに行くはずだ。少し大変かもしれないが、怪物になるよりはましな人生を送れるだろう。

なあ、星よ。俺に降ってきてくれ。俺を粉々にしてくれ。

“天高よ。諦めるな”

この声は！？月！月が俺にしゃべりかけてくる。

“天高よ。本来の学び舎としての役割を果たせぬお前の苦しみはわかる。だが、お前が潰れたところで我望は新しい学校を作るだけ。新たな犠牲が生まれるだけだ”

だが、月よ。このままでは生徒は怪物になってしまう。それを見過ごせというのか。

“天高よ。しばらく待つのだ。もうじきお前のところに嵐を呼ぶ転校生がやってくる。そのものを待つのだ”

嵐を呼ぶ……嫌、ちょっと待て。嵐が来たら迷惑なだけじゃないのか。

“天高よ。細かいことは気にするな”

気にするよ！

その後月は喋ってこなかった。俺はとりあえず嵐を呼ぶ転校生を待った。そして、そいつはやってきた。

その名は如月弦太郎。俺の学校に通う全員と友達になるという男だ。やつは確かに嵐を呼ぶ男だった。学校の常識に囚われず、己の信念を貫く。強い意思を持つ男だ。やつは遂に現れた怪物にも臆することなく立ち向かった。そして驚くべき変身を遂げた。

仮面ライダーフォーゼ。都市伝説の戦士、仮面ライダーの名を名乗る戦士だ。その力は凄まじく、怪物を次々となぎ倒す。まさに学園のニューヒーローだ。しかも弦太郎によって面白いことが起きた。

保健室の主で誰とも友達になろうとしなかった歌星賢吾。高飛車クインの風城美羽。弱い者いじめをしていたアメフトのキング、大文字隼。人を平気で騙す情報屋のJK。オカルト趣味を持つゴスの友子。彼女達が更生していったのだ。偉い、偉いぞ、弦太郎。この学校のどの教師よりも偉いぞ。

お前こそまさに天高の救世主だ。たまに教室や設備を破壊するのはやめてほしいとおもうが、大目に見てやろう。

まだまだ弦太郎が来たことで嬉しいことはある。あの天文学部に巣食う病原菌、牧瀬を倒してくれたのだ。いいぞ、いいぞ。よく牧瀬を倒してくれた。これで天文学部にも人が戻ってくるだろう。よくやった、弦太郎。

“天高よ。良かったな”

おお、月よ。弦太郎は素晴らしい嵐を起こしてくれました。

“そうだろう。そうだろう。だが、油断するな。まだお前のもとに

住まう悪の元凶が倒れたわけではない。十分に注意しろ”

了解しました、月よ。

“では、またな”

我望光明。彼を中心とした邪悪な勢力がいるかぎり、平和は生まれない。

しかし、生徒達もまた成長しているのだ。それこそ我望の予測を越えてな。弦太郎とその仲間達が未来への扉を開く。彼らが旅立つその日まで、俺は彼らの活躍を見届けよう。頑張れ、仮面ライダーオーゼ。

天の川学園高校の思い（後書き）

お読みくださりありがとうございます。

建物の視点から物語を描くとうなるかを試してみました。

やはり、宇宙を目指す人々のための学校ですから現状に不満を抱いているのではないかと思ひまして。

感想やアドバイスなど、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4166z/>

バディムの人々の短編集

2011年12月14日17時55分発行